

# ROCK FIELD report

第35期中間期のご報告

平成18年5月1日～平成18年10月31日

ROCK FIELD CO., LTD.



## 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。さて、当社第35期中間期（平成18年5月1日から平成18年10月31日まで）の営業の概況をご報告申し上げます。

当中間連結会計期間における日本経済は、原油高の影響が懸念されましたが、企業収益の改善に伴う設備投資の増加や個人消費も底堅く推移するなど、引き続き景気の回復基調が続きました。

そうざい業界におきましては、少子高齢化の進行などにより健康や安心・安全、おいしさといった高品質なそうざいが求められてきました。また、外食産業・食品メーカーなどの他業種からの新規参入企業も増加するなど、当社を取り巻く経営環境はますます厳しさを増してきました。

こうした中、当社グループはお客様のニーズに応えるため、高付加価値商品の開発を継続して行い、販売サービスの強化、生産性の向上、物流の効率化など経営全般にわたる改革、カイゼンを実施してまいりました。

また、農林水産省が食育活動の推進を図るため、「にっぽん食育推進事業」における「食事バランスガイド」の普及・啓発を図っており、それを実践する場として、当社がモデル企業の1つとして選ばれ、店舗での商品の販売を通じてその普及・啓発に努めてまいりました。

以上の結果、当中間期の連結売上高は21,700百万円（前年同期比6.5%増）、連結経常利益は943百万円（前年同期比15.3%増）、連結当期純利益は498百万円（前年同期比38.3%増）となりました。

今後、当社グループでは第5次中期経営計画「イノベーション0808」において、理念・価値観の具現化を通じて、時代に先駆け自ら変革することで、営業利益率8%を目指しております。そのために、生産部門では神戸、静岡、玉川の各ファクトリーの有効活用による生産性の向上、商品企画開発部門においては顧客のニーズに応じた商品の企画開発を行ってまいります。また、販売部門では地域別、時間帯別、曜日別などのニーズに対応する商品の提供、新規の出店や既存店舗のリニューアルを積極的に行うなどの施策を実施してまいります。

さらに、食に携わる企業の社会的使命として、そうざいを通じて人がイキイキと暮らし、大人から子供まで、「食」への興味や関心を育み、健康で豊かな食生活を送れるための「食育」に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年1月  
代表取締役社長 岩田弘三



## 積極的な「食育」活動の展開によって、食を大切にする人を増やしたいと考えています。

食育基本法、食育推進基本計画の施行を契機に、いま国を挙げて「食育」の活動が活発になっています。私たちは「健康」「安心・安全」「美味しさ」「鮮度」「サービス」「環境」の価値観のもと食に携わる企業の社会的使命として、今後さらに積極的な活動を続けて参ります。

理想的な食事バランスを、皆様を知っていただくために「食事バランスガイド」普及活動に協力しました。

2006年9月中旬から11月末まで約2ヶ月半の間、中食産業で初めて「食事バランスガイド」の実証事業（農林水産省補助事業「小売業や外食産業等におけるモデル実証事業」）に参加し、首都圏5店舗において現地実証を行いました。

「食事バランスガイド」とは、私たちが健康で暮らすには1日に「何を」「どれだけ」食べたらよいか。食事の望ましい組み合わせと量をわかりやすく、イラストで示したものです。

この「食事バランスガイド」をより多くの方に知ってもらうための実証事業に協力し、「アール・エフ・ワン」と「そうざいや地球健康家族」の首都圏5店舗で現地実証を進めました。また7ブランドの全店でリーフレットを設置し、「食事バランスガイド」の普及活動を行いました。

なお、この度はご紹介の意味をこめてリーフレットも同封させて頂きました。



### 普及活動ツール

実施店舗では、リーフレット配布の他に、ポスター設置、POPでの副菜のお勧めによって、お客様が栄養バランスに優れたメニューを摂りいただけるよう工夫しました。また、この取り組みの前後に、店頭アンケートを実施しました。



### 実施店舗の様子



西武池袋店RF1



キッズニアの街並み

こどもたちに、職と食の大切さを体感してほしい

## 「キッズニア東京」へ パビリオンを出展しました。



2006年10月5日、こどもが大人の仕事を体験し、楽しみながら社会の仕組みを学ぶことができる、日本初“こどものためのお仕事体験タウン”「キッズニア東京」がオープンしました。

「キッズニア東京」でこどもたちは、職業体験を兼ねて実際に働くことで、キッズ（専用通貨）で給料をもらいます。そのキッズを使って、今度は施設内で買い物などを楽しむことができます。社会のルールを学ぶことができるキッズニアの趣旨に賛同し、私たちロック・フィールドはスポンサー企業として参加しました。

当社が出展するパビリオンでは、「ベジテリア」でのジュース作りのお仕事が体験できます。現代のこどもたちに、働くことの大切さ、社会的な役割を伝えると同時に、この場を通して「食育」を推進してまいります。

### <キッズニア・レポート>

当社パビリオンのジューススタンドで、こどもたちがどんな風に働き、職と食の大切さについて学ぶのか、のぞいてみました。



**1.**ユニフォームに着替え、しっかり手洗い。準備ができれば、まずはこれから作るジュースと食材について勉強です。



**2.**ジュース材料の下ごしらえです。キッチンに立つのは初めてという子もいます。



**3.**お店で作るのと同じように本格的なミキサーで作ります。できたジュースはその場でいただきます。



**4.**キッズのお給料をもらいます。みんな、何に使うのでしょうか？

## 山の恵みで育つ牡蠣、 三陸 宮城から。

私たちロック・フィールドがお届けする商品の多くは、信頼する生産者の方から仕入れた素材を使用しております。前回の事業報告書でご紹介したケールに続いて、今回は、この時期に旬を迎える牡蠣をご紹介します。



### 生産地のこだわり

#### だから三陸産

三陸地方 宮城—ここは、美しい広葉樹の山々が海を取り囲む、自然豊かな地域です。アール・エフ・ワンで使用する牡蠣はすべて三陸産です。私たちが三陸産にこだわる理由。それは、この山と海の関係にあります。広葉樹におおわれた山々では、ナラやブナなどの落ち葉がバクテリアの働きで腐葉土になります。腐葉土に含まれる栄養は、雨に溶け川そして海へと注ぎ、海水のプランクトンを増やし、豊かな海を作ります。この豊かな海があるから、三陸の牡蠣は美味しいのです。三陸地方は、さらに牡蠣にとって理想的な自然条件を備えています。リアス式海岸特有の冷たく深く、塩分の濃い海が、ふっくらとしたなかに引き締まった美味しさをもつ、味の濃い牡蠣を育てます。

#### 2年をかけて、じっくり育てる

牡蠣の養殖は、ホタテの貝殻に稚貝を付着させ、その貝殻をロープに下げて海に沈めて行きます。美味しい



牡蠣が引き上げられるまでには2年もの月日が必要です。海が荒れる日もありますが、新鮮な牡蠣を出荷するためにほとんど休むことなく作業を続けています。

### 「安心・安全」な牡蠣のために

宮城県の海域は※清浄海域で、ここで獲れる牡蠣は生食用としても販売されています。その牡蠣を水揚げした後、さらに滅菌海水で一昼夜、生きたまま浄化します。こうして、牡蠣の体内にある雑菌を取り除いてから殻をむく作業に移ります。

※海水100mlあたり大腸菌群最少数が70以下の海域

### 身を取り出すのに一苦労

浄化された後、牡蠣は打ち子さんの手に渡ります。牡蠣の殻をむくことを「牡蠣を打つ」といい、その作業を行う人を打ち子さんと呼びます。打ち子さんは、朝の4時から夕方まで牡蠣を打ちます。

美味しい牡蠣には、このような手間が隠されているのです。



## ファクトリーでのこだわり



### 小さな殻まで、見逃さずチェック

ファクトリーには毎朝、とれたての牡蠣が到着します。そこから、鮮度を落とさないようスピード勝負の作業が続きます。まずは、異物が混入していないか、貝柱の裏側についている小さな殻まで見逃さないよう一粒ずつしっかりチェック。鮮度保持のため冷やされている牡蠣は、想像を超える冷たさですが、お客様に安心して食べてもらうためには、この地道な手作業は絶対に欠かせません。続いてパン粉を丁寧につけ、翌朝には店舗へ届けます。

## 店舗でのこだわり



### 「安心・安全」かきフライの出来上がり

店舗に届くと、牡蠣は冷蔵庫に入れ、徹底して温度管理を行います。冷蔵庫は、最低1日3回温度チェックを行い、商品が傷まないよう目を見張っています。また、揚げ油にもこだわり、全国のアール・エフ・ワンにおいては、「体に脂肪が付きにくい、特定保健用商品“ヘルシーリセッタ”」を使用して、お客様の健康を考えたそうざいづくりに努めています。

そして、お客様のお手元へ

「アール・エフ・ワン」

宮城産 かきフライ 100g/¥609(税込)

このように、たくさんの方のこだわりを経て、アール・エフ・ワンのかきフライは生まれます。外はサクサク、中はふわっの、濃厚なかきフライ。ぜひお召し上がりください。

※アール・エフ・ワンの一部の店舗では、三陸岩手産を使用しております。

# 連結財務諸表

## 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当中間期末 (平成18年10月31日現在)	前中間期末 (平成17年10月31日現在)	前期末 (平成18年4月30日現在)	科目	当中間期末 (平成18年10月31日現在)	前中間期末 (平成17年10月31日現在)	前期末 (平成18年4月30日現在)
<b>(資産の部)</b>				<b>(負債の部)</b>			
流動資産	8,899	8,638	9,471	流動負債	4,473	4,744	5,261
現金及び預金	5,198	5,054	5,607	買掛金	1,143	1,102	1,067
売掛金	3,029	2,926	3,157	1年内償還予定社債	—	370	335
たな卸資産	258	225	253	1年内返済予定長期借入金	819	926	919
その他	414	433	454	未払金	888	943	945
貸倒引当金	△1	△2	△1	未払費用	780	740	831
				賞与引当金	396	348	453
				その他	444	312	708
固定資産	16,061	16,623	16,441	固定負債	1,680	2,574	2,140
有形固定資産	13,438	14,013	13,746	長期借入金	1,660	2,574	2,137
建物	8,489	8,892	8,710	その他	20	0	3
土地	3,003	3,019	3,019	負債合計	6,153	7,318	7,402
その他	1,945	2,101	2,016	<b>(資本の部)</b>			
無形固定資産	414	368	464	資本金	—	5,544	5,544
				資本剰余金	—	5,861	5,861
投資その他の資産	2,208	2,241	2,230	利益剰余金	—	6,578	7,124
投資有価証券	503	725	584	その他有価証券評価差額金	—	172	195
差入保証金	665	656	656	為替換算調整勘定	—	△5	△6
その他	1,039	859	988	自己株式	—	△206	△207
				資本合計	—	17,943	18,511
				負債資本合計	—	25,262	25,913
				<b>(純資産の部)</b>			
				株主資本	18,661	—	—
				資本金	5,544	—	—
				資本剰余金	5,861	—	—
				利益剰余金	7,464	—	—
				自己株式	△207	—	—
				評価・換算差額等	145	—	—
				その他有価証券評価差額金	148	—	—
				為替換算調整勘定	△3	—	—
				純資産合計	18,806	—	—
資産合計	24,960	25,262	25,913	負債純資産合計	24,960	—	—

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期	前中間期	前期
	(自 平成18年5月1日 至 平成18年10月31日)	(自 平成17年5月1日 至 平成17年10月31日)	(自 平成17年5月1日 至 平成18年4月30日)
売上高	21,700	20,370	42,027
売上原価	9,515	9,025	18,567
売上総利益	12,184	11,344	23,459
販売費及び一般管理費	11,258	10,532	21,481
営業利益	925	812	1,977
営業外収益			
受取利息	37	38	57
受取配当金	1	0	0
保険配当金	4	19	20
その他	14	13	13
その他	16	5	22
営業外費用	19	32	61
支払利息	19	26	48
その他	0	5	13
経常利益	943	818	1,973
特別利益	34	3	4
貸倒引当金戻入益	—	3	4
固定資産売却益	11	—	—
保育所建設補助金	23	—	—
特別損失	81	129	175
固定資産除売却損	32	104	143
役員退職功労金	—	25	25
店舗等閉鎖に伴う損失	49	—	—
減損損失	—	—	6
税金等調整前中間(当期)純利益	896	693	1,803
法人税、住民税及び事業税	338	221	751
法人税等調整額	59	110	42
中間(当期)純利益	498	360	1,009

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円)

科目	当中間期	前中間期	前期
	(自 平成18年5月1日 至 平成18年10月31日)	(自 平成17年5月1日 至 平成17年10月31日)	(自 平成17年5月1日 至 平成18年4月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,166	1,503	3,224
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 505	△ 447	△ 1,061
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,070	△ 883	△ 1,448
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	3	3
現金及び現金同等物の増減額	△ 408	176	718
現金及び現金同等物の期首残高	5,607	4,878	4,878
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	—	10
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高	5,198	5,054	5,607

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 中間連結株主資本等変動計算書

当中間連結会計期間(自 平成18年5月1日 至 平成18年10月31日)

(単位：百万円)

科目	株主資本					評価・換算差額等			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計	
平成18年4月30日 残高	5,544	5,861	7,124	△ 207	18,322	195	△ 6	188	18,511
中間連結会計期間中の変動額									
剰余金の配当(注)			△ 159		△ 159				△ 159
中間純利益			498		498				498
自己株式の取得				△ 0	△ 0				△ 0
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)						△ 46	3	△ 42	△ 42
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	339	△ 0	338	△ 46	3	△ 42	295
平成18年10月31日 残高	5,544	5,861	7,464	△ 207	18,661	148	△ 3	145	18,806

(注)平成18年7月の定時株主総会における利益処分項目であります。

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 単体財務諸表

## 中間貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当中間期末 (平成18年10月31日現在)	前中間期末 (平成17年10月31日現在)	前期末 (平成18年4月30日現在)	科目	当中間期末 (平成18年10月31日現在)	前中間期末 (平成17年10月31日現在)	前期末 (平成18年4月30日現在)
(資産の部)				(負債の部)			
流動資産	8,745	8,589	9,317	流動負債	4,459	4,733	5,222
現金及び預金	5,069	5,012	5,483	買掛金	1,146	1,098	1,072
売掛金	3,024	2,926	3,150	1年内償還予定社債	—	370	335
たな卸資産	241	222	243	1年内返済予定長期借入金	819	926	919
その他	411	430	440	未払金	886	942	920
貸倒引当金	△1	△2	△1	未払法人税等	395	271	585
				賞与引当金	395	348	452
				その他	816	775	936
固定資産	16,358	16,804	16,729	固定負債	1,660	2,574	2,140
有形固定資産	13,338	13,910	13,639	長期借入金	1,660	2,574	2,137
建物	8,431	8,819	8,644	その他	—	0	3
土地	3,003	3,019	3,019	負債合計	6,120	7,308	7,363
その他	1,903	2,071	1,974	(資本の部)			
無形固定資産	355	367	397	資本金	—	5,544	5,544
				資本剰余金	—	5,861	5,861
投資その他の資産	2,664	2,525	2,693	資本準備金	—	5,861	5,861
投資有価証券	968	1,011	1,050	利益剰余金	—	6,714	7,289
差入保証金	664	654	655	利益準備金	—	179	179
その他	1,032	859	987	任意積立金	—	5,896	5,896
				中間(当期)未処分利益	—	638	1,214
				その他有価証券評価差額金	—	172	195
				自己株式	—	△206	△207
				資本合計	—	18,085	18,683
				負債資本合計	—	25,393	26,046
				(純資産の部)			
				株主資本	18,835	—	—
				資本金	5,544	—	—
				資本剰余金	5,861	—	—
				資本準備金	5,861	—	—
				利益剰余金	7,637	—	—
				利益準備金	179	—	—
				その他利益剰余金	—	—	—
				配当準備積立金	100	—	—
				別途積立金	6,396	—	—
				繰越利益剰余金	962	—	—
				自己株式	△207	—	—
				評価・換算差額等	148	—	—
				その他有価証券評価差額金	148	—	—
				純資産合計	18,984	—	—
資産合計	25,104	25,393	26,046	負債純資産合計	25,104	—	—

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 中間損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期	前中間期	前期
	(自 平成18年5月1日 至 平成18年10月31日)	(自 平成17年5月1日 至 平成17年10月31日)	(自 平成17年5月1日 至 平成18年4月30日)
売上高	21,575	20,297	41,880
売上原価	9,457	8,985	18,486
売上総利益	12,118	11,312	23,393
販売費及び一般管理費	11,194	10,479	21,375
営業利益	924	832	2,017
営業外収益	38	38	57
営業外費用	19	31	60
経常利益	943	838	2,014
特別利益	34	3	4
特別損失	81	129	175
税引前中間(当期)純利益	896	713	1,843
法人税、住民税及び事業税	333	221	751
法人税等調整額	55	110	42
中間(当期)純利益	507	381	1,049
前期繰越利益	—	257	257
中間配当額	—	—	92
中間(当期)未処分利益	—	638	1,214

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間(自 平成18年5月1日 至 平成18年10月31日)

(単位：百万円)

科目	株主資本								評価・換算差額等		純資産合計		
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金		評価・換算 差額等合計	
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金								利益剰余金 合計
					配当準備積立金	別途積立金	繰越利益剰余金						
平成18年4月30日残高	5,544	5,861	5,861	179	100	5,796	1,214	7,289	△207	18,488	195	195	18,683
中間会計期間中の変動額													
別途積立金の積立(注)						600	△600	—		—			—
剰余金の配当(注)							△159	△159		△159			△159
中間純利益							507	507		507			507
自己株式の取得									△0	△0			△0
株主資本以外の項目の 中間会計期間中の変動額(純額)											△46	△46	△46
中間会計期間中の変動額合計	—	—	—	—	—	600	△252	347	△0	347	△46	△46	300
平成18年10月31日残高	5,544	5,861	5,861	179	100	6,396	962	7,637	△207	18,835	148	148	18,984

(注)平成18年7月の定時株主総会における利益処分項目であります。

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

「アール・エフ・ワン」 157店舗



ひとりひとりの健康のこと。家族同士のコミュニケーションのこと。子どもたちの心とカラダのこと。それはみんなきちんとした食事から始まると私たちは考えます。また、私たちは食を通じて、新しいライフスタイルを提案します。

「より上質」を求める市場のニーズに応えるため、定番メニューの品質向上やこだわりの素材を使った週末限定商品の導入など、より付加価値の高い商品への取り組み強化を行いました。また、買い合せの提案や地域別、時間帯別、曜日別に売り方や商品の内容を変えたり、自社の他ブランド商品を導入するブランドミックス、商品ミックスを行いました。新しい取り組みとしましては、翌朝の朝食としてご利用いただく「キットサラダ」の提案、スイーツとして「おから豆乳クッキー」などの買い合せ商品を導入いたしました。その結果、売上高は15,177百万円となりました。

「ベジタリア」 37店舗



ベジタリアは、当社の企業理念である「健康」とそこから生まれる世代や性別を超えた「美しさ」にこだわって、様々な商品・サービス・情報を発信することを使命として生まれた次世代ブランドです。野菜のおいしさや鮮度へのこだわりを果物の世界にまで広げ、そうざいの枠を超えたジュースという新しい形で表現していきます。

母の日やワールドカップ、ハロウィンなどにちなんだ期間限定商品や産地の旬の素材を生かした「茨城のメロン」「沖縄シークワサー」など、おいしさや鮮度にこだわったジュースを提案いたしました。また、季節に合わせた旬の野菜を使用し、定番商品の強化にも取り組みましたが、売上高は1,205百万円となりました。

「神戸コロッケ」 59店舗



神戸コロッケは、冷凍コロッケが当たり前だった時代に、生コロッケの揚げたてを売るという新しい発想から生まれました。明治・大正の先輩職人に恥じない、良質のコロッケをお届けしています。

じゃがいもやクリームなどの定番コロッケの素材・製法・技術の向上に努めました。さらに「神戸カツレツ重」、「夏たらば蟹のクリームコロッケ」などの高付加価値商品を導入いたしました。その結果、売上高は2,082百万円となりました。

「融合」 9店舗



食は遙か昔から異文化と出会い、融合し、たくさんの驚きと感動を与えてきました。

融合は、世界の食に影響を与えつづけるアジアの食文化を背景に、アジア各国の人気メニューを取り揃えたアジアのセレクトショップとしてどこにもなかったスタイリッシュでヘルシーなメニューをお届けいたします。

お客様の多様なニーズに応えるため地域別、時間帯別、曜日別に売り方や商品の内容を変えたり、品揃えの強化に取り組みました。また、「きれいな青菜の上湯仕立て」や「里芋のもっちり揚げ」など、産地や生産者にこだわった商品を提案するとともに、月替わりの麺・飯メニューを展開し、より付加価値の高い商品を導入いたしました。その結果、売上高は513百万円となりました。

「三日坊主」 6店舗

「いとほん」 7店舗



いとほん



三日坊主は、天然素材を吟味してひいただしを使用し、素材のうまみを引き出す最適な方法で、四季折々の旬の美味しさをお届けします。

いとほんは、“食楽”という新しい考え方を取り入れた和そうざいのお店です。日本人の心・身体が求める食、安心して楽しめる和そうざい。素材や調理方法にこだわった伝統的な日本料理で、受け継がれてきた日本の食文化を伝えます。

国内産の旬の素材を使用した「信州産グリーンアスパラガスの黒胡麻和え」や「加賀きゅうりの塩昆布和え」など付加価値の高い商品の導入を行うとともに、お客様のニーズに対応した品揃えの強化に取り組みました。その結果、売上高は687百万円となりました。

「そうざいや地球健康家族」 30店舗



信頼できる生産者から提供される新鮮で安全な食材を使用し、日々ご利用いただける「そうざい専門店」として和・洋・中バラエティー豊かなメニュー展開をしています。皆様の健康的な食生活をサポートすると共に、より地域に密着し豊かな街づくりにも貢献していきます。

当社が取り組む食育の一環として、子どもが苦手とする野菜が美味しくたくさん食べられる「野菜の力を新発見セット」や旬の野菜や素材を知る「元気はじける夏セット」、「秋の彩りセット」など季節感あふれる商品の展開とともに、自社の他ブランド商品も導入し、お客様のニーズに対応した品揃えを強化いたしました。その結果、売上高は1,800百万円となりました。

## 会社概要

(平成18年10月31日現在)

- 社名／株式会社ロック・フィールド
- 設立／1972年6月8日
- 事業内容／そうざいの製造・販売
- 代表者／代表取締役社長 岩田弘三
- 資本金／55億44百万円
- 従業員数(連結、契約社員含む)／1,170名

## 取締役および監査役

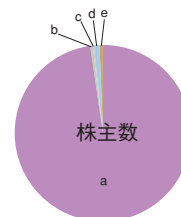
地位	氏名
代表取締役社長	岩田 弘三
常務取締役	湯浅 勉
取締役	福田 滋示
取締役	矢嶋 勝
取締役	尾崎 一郎
取締役(社外)	堀場 厚
取締役(社外)	寺田 千代乃
常勤監査役	渡辺 哲夫
監査役	三宅 良治
監査役(社外)	阿部 良男
監査役(社外)	林 義久
監査役(社外)	奥田 実

## 株式の状況 (平成18年10月31日現在)

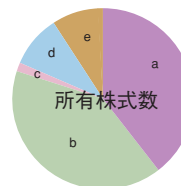
- 会社が発行する株式の総数 40,000,000株
- 発行済株式数の総数 13,394,374株
- 1単元の株式の数 100株
- 株主数 10,110名
- 大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	出資比率(%)
岩田弘三	1,526,368	11.39
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,502,400	11.21
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	752,100	5.61
明治安田生命保険相互会社	656,300	4.89
株式会社四国銀行	621,460	4.63
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	262,800	1.96
ダイヤモンドリース株式会社	241,032	1.79
明治安田生命保険相互会社第51口	237,600	1.77
モルガン・スタンレー・アンド・カンパニー・インターナショナル・リミテッド	222,300	1.65
岩田夢隆	217,340	1.62

## 所有者別分布状況



■ a 個人・その他	9,876名	97.69%
■ b 金融機関	47名	0.46%
■ c 証券会社	23名	0.23%
■ d 一般法人	102名	1.01%
■ e 外国法人等	62名	0.61%



■ a 個人・その他	5,399,103株	40.31%
■ b 金融機関	5,417,872株	40.45%
■ c 証券会社	210,752株	1.57%
■ d 一般法人	1,249,672株	9.33%
■ e 外国法人等	1,116,975株	8.34%

## 株主メモ

事業年度	毎年5月1日から翌年4月30日まで
定時株主総会	7月
剰余金の配当基準日	期末 4月30日 中間 10月31日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所(お問い合わせ先)	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777(通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 野村證券株式会社 全国本支店 なお、株式関係のお手続き用紙のご請求は、以下の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。 電話(通話料無料) 0120-244-479(本店証券代行部) 0120-684-479(大阪証券代行部) インターネットホームページ <a href="http://www.tr.mufg.jp/daikou/">http://www.tr.mufg.jp/daikou/</a>
公告方法	電子公告( <a href="http://www.rockfield.co.jp/">http://www.rockfield.co.jp/</a> ) ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることが出来ない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

## 当社ホームページのご紹介



こちらのWEBサイトで、当社の店舗、商品、企業情報などについて詳しく掲載しております。ぜひ、ご覧ください。

<http://www.rockfield.co.jp/>

## 株式会社 ロック・フィールド

神戸ヘッドオフィス	〒658-0024	神戸市東灘区魚崎浜町15-2	TEL.078-435-2800(代表) FAX.078-435-2805
東京オフィス	〒101-0044	東京都千代田区鍛冶町1-9-16丸石第二ビル	TEL.03-3526-6355(代表) FAX.03-3526-6356
神戸ファクトリー	〒658-0024	神戸市東灘区魚崎浜町15-2	TEL.078-435-2200(代表) FAX.078-435-2210
静岡ファクトリー	〒438-0112	静岡県磐田市下野部2280	TEL.0539-62-5700(代表) FAX.0539-62-5041
玉川SPSファクトリー	〒213-0032	神奈川県川崎市高津区久地3-12-57	TEL.044-811-8171(代表) FAX.044-811-8199